

第 6 回(令和 6 年度)ふしの干潟いきもの募金の支援対象活動実績報告書

受付番号 24-1

1. 申請者(活動実施者)

氏名・団体名	カブトガニワーキンググループ リーダー 原田 直宏(山口カブトガニ研究懇話会)
--------	--

2. 活動内容

活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> 環境学習等の親水活動 <input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・モニタリング
活動名	山口湾カブトガニ幼生生息調査・観察会
活動目的	山口湾には、絶滅危惧種であるカブトガニが生息しており、その生息状況を把握し、保護を図ることを目的とする。また、干潟を体験できる機会を設ける。
活動について	<p>① 概要 山口湾長浜および南潟に生息するカブトガニ幼生の生息状況を調査した。</p> <p>② 当初計画との相違点(スケジュール、内容等) 長浜においては、例年、幼生生息調査とカブトガニ幼生の観察会を実施しているが、台風 10 号の接近に伴い中止を余儀なくされた。 後日、長浜における幼生生息調査のみ、調査レーンを半分に縮小の上、関係者のみで実施した。 南潟における幼生生息調査は、予定通り実施した。</p> <p>③ 活動の効果、反省点、課題、今後の展望 幼生生息調査は、長浜では 24 名が参加し、南潟では 14 名が参加した。 長浜では、通常の半分の 10 レーン(全 20 レーンのうち偶数番目のみ実施)で 274 個体、南潟では、5 レーンで 151 個体の幼生を確認した。 今年度は、観察会は中止となったものの、当日の気象状況を踏まえた柔軟な対応を取りながら、参加者の怪我等もなく調査を継続できた。 特に熱中症対策については、今後もスタッフ配置や対策品の準備等、十分に配慮する必要があると考える。 調査の継続により貴重なデータを積み重ねており、今後も継続して取り組んでいく。</p>

3 支出内訳

配分額	(精算払) 70,000 円	助成金額	(精算額) 9,863 円
予算の支出期間	2024 年 8 月 ~ 2024 年 9 月		
支出	応募案内中の表 1: ①~⑦の項目ごとに記入してください。		
	区分	支出額(円)	内訳
	備品・消耗品費	6,842	参加者飲み物(長浜及び南潟分)
	備品・消耗品費	1,636	G P S 用単 3 電池(20 本)、耐水紙
	保険料	1,000	カブトガニ幼生調査保険(20 名)
	事務管理費	385	振込手数料
	合計	9,863	

1. 申請者（活動実施者）

氏名・団体名	榎野川流域連携促進協議会
--------	--------------

2. 活動計画

活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> 干潟環境の向上・保全、景観の保全 <input checked="" type="checkbox"/> 環境学習等の親水活動 <input checked="" type="checkbox"/> 生物多様性の向上、漁場環境の改善
活動名	榎野川河口干潟再生活動 2024
活動について	<p>① 概要</p> <p>2008 年度から南潟において住民参加型の干潟再生活動を実施しており、活動は、例年春と夏にイベント形式で開催し、地域住民、企業、大学等の多くのボランティアの協力を受けている。</p> <p>(イ) 春の干潟再生活動</p> <p>4 月 27 日（土）に以下のとおり実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実施日：2024 年 4 月 27 日（土） ● 場 所：榎野川河口干潟（南潟）、旧山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所 ● 主 催：榎野川流域連携促進協議会、山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所、榎野川河口域・干潟自然再生協議会 ● 協 力：あいおいニッセイ同和損害保険(株)山口支店、(株)伊藤園山口支店、水産大学校、山口大学 ● 参加者：186 人（スタッフ込み） ● 内 容：榎野川の恵みを味わう試食会（山菜の天ぷら） 寄附付き商品の販売、募金活動 アサリ再生活動（被覆網のメンテナンス、アサリ稚貝の育成） カブトガニ産卵場造成、生きもの観察会 <p>(ロ) 夏の干潟再生活動</p> <p>7 月 20 日（土）に以下のとおり実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実施日：2024 年 7 月 20 日（土） ● 場 所：榎野川河口干潟（南潟）、旧山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所 ● 主 催：榎野川河口域・干潟自然再生協議会 干潟・水産資源再生 WG、持続可能な里海づくり WG ● 参加者：49 人（スタッフ込み） ● 内 容：アサリ稚貝保全活動（アサリ稚貝保全用網袋を開封・放流） 生きもの観察会 <p>② 当初計画との相違点（スケジュール、内容等）</p> <p>概ね当初の計画通りに実施することができた。</p> <p>③ 活動の効果、反省点、課題、今後の展望</p> <p>春の干潟再生活動については、昨年と同様に多くの参加者にご協力いただき、けが等もなく実施することができた。ただし、アサリの収穫量が少なく、参加者へ配布できなかったため、来年以降配布できるよう取り組みたい。</p> <p>夏の干潟再生活動については、気温・湿度共に非常に高い日であったが、熱中症対策として、テントや扇風機の設置、氷・プレクーリング飲料、塩分タブレットの配布等を行うことで、傷病者なく実施することができた。特に夏季の行事については、実施時期や熱中症対策について検討の上、実施していきたい。</p> <p>榎野川流域の関係者の連携の象徴的な取組であり、親水性の向上にも寄与している取組であることから、今後も継続して取組を実施する。</p>

3 支出内訳

配分額	(精算払) 200,000 円		助成金額	(清算額) 66,476 円
予算の支出 期間	2024 年 4 月～2024 年 4 月			
支出	応募案内中の表 1 : ①～⑦の項目ごとに記入してください。			
	区分	支出額(円)	内訳	
	備品・消耗品費	60,686	ボランティア用飲料代 (春・夏計 264 本分) 25,089 円 試食会及び干潟活動関係品 (天ぷら材料費、 皿、箸、網袋等) 35,597 円	
	保険料	4,800	干潟再生活動保険 (春 : 200 名) 3,800 円、 干潟再生活動保険 (夏 : 40 名) 1,000 円	
	事務管理費	990	振込手数料 (保険料、資材購入時)	
	(備品・消耗品費)	(4,860)	寄附付き商品発注費 (ふしの干潟せんべい) ※売上として収入があったため差引き 0 円	
	合計	66,476		

1. 申請者（活動実施者）

氏名・団体名	ブルーカーボンワーキンググループ リーダー 山本 浩一（山口大学）
--------	--------------------------------------

2. 活動計画

活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> 生物多様性の向上、漁場環境の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 環境学習等の親水活動 <input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・モニタリング <input checked="" type="checkbox"/> その他、干潟等の保全・再生に関すること
活動名	アマモの再生活動およびアマモ見学会の開催
活動目的	① 概要 2024 年 5 月に山口市秋穂二島長浜においてアマモ再生活動を行った。また、11 月にアマモ見学会を行った。
活動について	② 当初計画との相違点（スケジュール、内容等） 2024 年 4 月 第 1 回 WG アマモ見学会計画立案（当初通り実施） 2024 年 5 月～6 月 アマモ花枝採取・花枝を海底に設置（当初通り実施） マルチスペクトル UAV、音響測深でアマモ場の面積を測定（他機関で実施のため未実施） 2024 年 7 月 一般市民を対象としたアマモ見学会を開催（高温のため 11 月に延期して実施） 2024 年 7 月 瀬戸内海研究フォーラムで発表（出張が重なったため未実施） 2025 年 1 月 アマモ再生状況を視察（追加実施） 2025 年 1 月 第 2 回ブルーカーボン WG（追加実施） 2025 年 3 月 水環境学会で発表（当初通り実施） 「アマモ場における底質のせん断強度の増加」山口大院・創成科 ○山本浩一*、岩谷潔、乗越晃、元永直耕ら、日本水環境学会第 59 回年会、札幌 ③ 活動の効果、反省点、課題、今後の展望 当初計画していたアマモ見学会は人気があり、多数の申し込みがあったが、実施予定の 7 月は高温のため中止とした。その後 11 月 4 日に船上からの観察会を 4 名参加の上で実施したことが報告された。次年度はより温度の適当な 5 月に実施することを検討することになった。 アマモ再生活動 5 月 9 日の再生活動実施状況の後の状況について再生活動を行ったエリア周辺で 1 月 16 日に確認したところでは実生の発生があった。再生活動の効果があったといえる。

3 支出内訳

配分額	(精算払) 50,000 円	助成金額	(清算額) 50,000 円
予算の支出期間	2024 年 5 月～2025 年 1 月		
支出	応募案内中の表 1：①～⑦の項目ごとに記入してください。		
	区分	支出額(円)	内訳
	備品・消耗品費	50,000	GPS、GPS カバー
	合計	50,000	